



# 広安里

発行 釜山日本人学校

釜山広域市水営区民楽洞173-8

TEL 051-753-4166

FAX 051-756-4851

<http://user.chollian.net/~pusjpnsc>平成  
18年度  
第4号

## 近くてよく見えるもの

釜山日本人会長

高橋 一郎

それは小学校に入学まもない時期のことだった。突然、不思議ですぐには納得いかず、頭を悩まし続けることがあった。好きだ、嫌いだ、何々したい、について考え、喋り、書き、読むことばは人間ならだれしも同じものであると信じて疑わなかった。ところがまったく自分の理解できない別のことばがあるらしいことが分かった。自分にはチンプンカンプンのことばで生活している人たちがいることを。人間は無限に広がる平らな平地ではなく巨大な丸い球面に生活しているのだと理解する以前のことであった。

それから徐々に自分の生活が地球の国単位に区切られた地域であることを学んだ。そして自分の話すことばの重み、社会の成り立ち、伝統、文化などを学びながら大人の仲間入りに向けて歩みはじめた。

その後成人し社会人としての長い年月を経ながら、さまざまなことばを使いそれぞれの伝統文化を継承する国々へ訪問、住む機会があった。そこで外国の人々の生活を知り、意思疎通を実体験することができた。そして現在まで3年半、日本からは外国であり独自のことば、文化を持つ国、都市、韓国釜山に生活している。

近くて遠い国はお互い近いがためによく相手を知らない、理解しづらい関係にあるといわれる。しからば自国を見る場合にはどうであろうか。戦後日本は経済復興、生活向上、知識見聞を広めるため海外へ進出、外地勤務する人が増えた。これを通じて世界への目を開き同時に自らを正しく理解し、より磨きあげることができると考えてきた。そして自分はまさにこの貴重な体験ができた一人だと自負してきた。社会人になって仕事柄、平均的日本人以上に多くの外国を訪問し、イギリスやアメリカでの駐在生活も体験できたのだかと。

ところが、である。最近、日本に一番近い外国、韓国に来て、日本を知るチャンスがより多いと感じている。よいところよりも、情けないところ、弱点がいつそうはっきり見える。より遠くの外国での生活では、よいところ、誇らしいところがより強く感じられたのだが。

おそらく、それは日本にもっとも近い外国、韓国釜山の地理的位置に加え、この国の国民性、日本への強い関心、熱い競争心が混ざり合い、外国人であるわれわれに心理的影響を与えているとも思われる。かつては考えられなかったインターネット社会の出現、情報のリアルタイム化、一部共有する文化、生活環境のなかで、われわれはよりはっきりと鮮明に、自らを見ることが出来るかも知れない。

なにがよく見えたか。たとえば、日本を思う心のありようである。近頃、日本と外国との付き合い方について考えることが多い。日本の外国との接し方、自らの考えへの曖昧さが目立つように思える。民主主義を深め、多様な考え方を受け入れると同時に伝統文化、先達の残したものへの敬意、継承について、よく理解しはっきり自覚すべきではなかるうか。あえて自らの考えを曖昧とし、それが礼儀だとして正面から向き合わないことは、国としての基本的な思いを見えにくくし、相手に誤解を与えはしないか。

かけがえのない地球の繁栄のため、家族、郷土、祖国への思いをひとつにしてはじめて人類への、地球への思いがひとつに結ばれていくのではと思う。日本に最も近い外国に生活するにあたり、郷土、祖国をいとおしむ心、自信を持つことが大切であり、自分たちの仲間、地域への思いを確認するのを怠ることなく、人類愛への夢を追い続けたいものである。